

# ホタルゆに

## － ホタルとおったらぶちおもしろいっちゃー

構成員		代表者	浜田朝美	(農2年)		
	門脇祐	(理工M1)	森博隆	(農学M1)	坂口かおる	(農4年)
	橘麻里子	(農4年)	岡菜摘	(人2年)	石山綾野	(農2年)
	江尾陽	(理1年)	門脇巧	(理1年)	村松大吾	(理1年)
	中尾駿	(理1年)	岡田奈々	(農1年)	志岐和美	(農1年)
	菊永康志	(工1年)	吉原周平	(工1年)	石原涼	(経1年)
	木村百花	(教1年)				

### 1. プロジェクトの目的

吉田キャンパス農学部附属農場付近にはかつてよりホタルが生息しているが、その数は年々減少していると言われている。本プロジェクトはキャンパスのホタルを再生していくことをねらいとしており、そのためにホタルのみならず他の生物にとっても住みやすい環境を学内につくっていくこととしている。また、私たちの活動が学生の環境学習の場、地域との交流の場、憩いの場へと結びつくことを期待している。

### 2. プロジェクトの内容

学内のホタルの復活のために、ホタルの飼育、吉田寮前のホタル水路の管理、既存の水路の整備を行っていく。また、地域との交流の場として、榎野川ホタル水路での活動を進めている。環境活動を行う学生団体との交流会などのイベントにも参加している。

### 3. 1年間の活動内容

< 4月 >

「新フェス」に参加、茶話会

< 5月 >

ビオトープ作業・「平川地区クリーン作戦」に参加・ホタル飼育の準備・ホタル採取

< 6月 >

飼育準備・ビオトープ作業（芝張り）・「ホタル研修会」に参加・ホタルの観察（一の坂川等）山口大学内のホタル飛翔数調査（5/23～6/20）・榎野川ホタル水路について話合い（県、地域の方と）・ホタル飼育場の見学（山口ふるさと総合伝承センター）・ビオトープ作業・「環境未来サミット」（山口県立大学）に参加・榎野川ホタル水路清掃

< 8月 >

「おもプロ交流会」に参加・榎野川ホタル水路の草刈、ゴミ拾い・榎野川ホタル水路の「生物観察会」に参加

< 9月 >

「環境セミナーin 石見銀山」に参加・「四国ギャザリング」に参加

< 10月 >

「榎野川ホタル水路」の名称を「ほうほう川」と命名・ホタル幼虫の放流式・ホタル幼虫の飼育室開放・サステコの回収箱設置

< 11月 >

「平川まつり」に参加・ほうほう川の清掃

< 12月 >

「学生ボランティア活動支援・促進の集い」に参加

< 1月 >

ホタルミュージアム（下関市豊浦町）の見学・ほうほう川の清掃

#### 4. 活動報告

##### ・吉田寮前ホタル水路の管理

吉田寮の前に建設されたホタル水路の管理を行ってきた。

大学の用務員の方の指導を受けつつ、5月はむき出しの土が流されないように芝を張り、夏は草抜きをし、水路の流れがホタルの生息に適した流れになるように石などで堰を作るなどの作業を行った。他にも、水路に詰まった土砂を取り除いたり、菖蒲の定植もおこなったりしている。作業は、暑い中の作業や重労働の作業も多かったが、作業後は充実感が得られ、また、メンバーと協力して作業を行うことで、メンバーの連帯感も深めることができたように思う。



図1 菖蒲植え



図2 芝張り作業



図3 芝張り



図4 作業後のホタル水路

##### ・ホタル採取・飼育・放流

5月末に大学内のホタルの成虫を採集し、成虫が産んだ卵を孵化させ、幼虫の世話をを行った。

そして、ある程度育った10月にホタル水路で放流した。

ホタルの成虫は5月末～6月末まで、学内で光る姿を見ることができる。ホタルには、5月末に学内で採取を行い、農学部附属農場の飼育室で飼育を行った。成虫を手作りの孵化装置に入れて、産卵、孵化させ、幼虫を水槽に入れて、餌やりや水替えなどの作業を行った。ホタルの幼虫は、巻き貝の1種であるカワナシしか食べないため、学内の水路で採取したカワナシも水槽で飼育し、ホタルの幼虫に定期的に与えるようにした。これを当番制で毎日行い、10月の放流まで幼虫の世話をし、その生育を間近で観察することができた。放流式の直前は、飼育室の開放、ホタルについてのパネルなどの作成・展示を行い、大学内でホタルやホタルへのアピールを行った。

放流式は、大学の先生方や学生の方々などたくさんの人が集まって行われた。来年は、ホタル水路でホタルが見られるようになればいいと思う。



図5 ホタル採集（集合写真）



図6 採集したホタルの成虫



図7 飼育室の様子



図8 脱皮直後の幼虫



図9 放流前の幼虫



図10 放流の様子

#### ・ほうほう川

榎野川ホタル水路は、平成17年に竣工し関係者の方々の有志によって管理されてきたものである。管理をより円滑に行うため、そして地域と大学の場としこの水路を盛り上げていくために、8月頃から地域の方々とホタルゆいの学生で会議を行い、清掃活動や草刈りなど、共同で作業を行ってきた。また、榎野川ホタル水路は、名前を一般公募から選ばれた「ほうほう川」に変更することになり、今後もこの水路を盛り上げていくために、地域の方々と協力し活動を行ってきたい。



図 11 ほうほう川



図 12 ほうほう川の草刈り



図 13 ほうほう川の命名式



図 14 ほうほう川での生物観察会

#### ・その他の活動

ホタゆには、大学や地域の方々の紹介で様々なイベントや研修会に参加することができました。また、ホタルに関する活動を行う山口県内の施設も見学させていただきました。それぞれのイベントや見学では、たくさんの出会いがあり、様々なことを学ぶことができました。そして、イベントで得たつながりにより、ほうほう川の管理など、新たな活動を始めることもできました。参加することで得た経験を、これからは活かしていきたい。

<メンバーの感想（環境セミナーin 石見銀山）>

ホタゆには、ビオトープ造成やホタルを育てつつ、環境に対する意識を深めるために、昨年9月に石見銀山に行きました。石見銀山は室町～江戸時代にかけて最良の銀を産出した地域なのですが、他の金銀山と違って、自然環境と共生してきたということがすごいことだと思います。他の鉱山は、産出した鉱物を鑄造するさいに周辺の木々を伐採して、荒れ山となることも珍しくないからです。銀山の間歩、周辺を歩いていくと緑が多く、残暑だとういうのにととても涼しかったです。

2日目は、他の団体のメンバーとともに、環境の様々な事柄について意見を交換し合いました。この石見銀山で初めて会ったメンバーなのですが、みんな環境に対する意識が深く、次々と新しい意見が出てきてとても勉強になりました。



図 15 環境サミット in 石見銀山



図 16 環境みらいサミット（山口県立大学）

## 5. 展望

今後は、今までやってきたホタルの飼育・放流、ホタル水路の管理、ほうほう川の管理などをやりながら、これまでの経験や人とのつながりを活かして、イベントの開催や新しいプロジェクトを考えて実行し、地域の方々や大学に貢献できるような活動に発展させていきたい。